

三次市総合教育会議（第5回）会議録

- 1 日 時 平成28年1月13日（水）
開会 午後3時30分
閉会 午後5時00分

- 2 会 場 三次市役所本館6階 603会議室

- 3 出席構成員
市 長 増 田 和 俊
教 育 長 松 村 智 由
教 育 委 員 沖 田 稔
教 育 委 員 小 根 森 直 子
教 育 委 員 藤 原 博 巳
教 育 委 員 土 井 純 子

- 4 出席職員等
（教育委員会）
教 育 次 長 中 宗 久 之
事 務 局 付 課 長 出 口 康 子
学 校 教 育 課 長 稲 倉 孝 士
文 化 と 学 び の 課 長 杉 原 達 也
文 化 と 学 び の 課 係 長 廣 瀬 恭 子
（事務局）
総 務 部 長 福 永 清 三
秘 書 広 報 課 長 矢 野 美 由 紀
秘 書 広 報 課 係 長 細 美 健
秘 書 広 報 課 主 事 奥 村 麻 美
（傍聴者） 1名

5 議事

○ 平成28年度予算について

秘書広報課長 それでは、ただ今から、「平成28年度第5回三次市総合教育会議」を開催する。

まず、はじめに、総合教育会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項により、原則公開となっておりますので、申し込みのあった1名に対し、傍聴を許可してよいか。

構成員一同 ー異議なしー

秘書広報課長 続いて、「三次市総合教育会議傍聴要領」第5条第3項により、傍聴席において写真等の撮影や録音をしようとするときは、許可が必要となっておりますので、希望者に対し、撮影等を許可してよいか。

構成員一同 ー異議なしー

秘書広報課長 それでは、次第の「2協議事項」に入る。これよりの会議の進行は議長である増田市長にお願いする。なお、本日の議題は、来年度の予算関連ということで、資料については、予算査定前の未確定である予算要求段階の資料を使用しながらの進行とさせていただく。構成員の皆さんにはそういった資料の性質をご理解いただきたい。

また、傍聴者・報道の皆さんには、本日、一部非公開の資料を使用しながらの進行とさせていただくので、ご了承いただきたい。

増田市長 委員の皆さん、改めましてあけましておめでとうございます。昨年も様々な面で、教育の充実に向けたご支援・ご協力をいただいたことにお礼を申し上げます。今日は、第5回総合教育会議を開催させていただく。これまで開催した第1回～

4回の総合教育会議では、大きな指針である「三次市教育大綱」を策定することができた。委員の皆さんや教育委員会と事務局の連携・協力のおかげである。今後市長として、策定した「三次市教育大綱」を基本に置きながら、教育の充実を図り、責任を果たしていきたい。

現在、予算編成も最終局面に向かっていっているので、皆さんからいただいたご意見も反映させていきたいと思う。

今日は、新年度予算について協議を行う。まずは私から、平成28年度に実施予定の主な事業について、簡単にお話しさせていただくので、その後、皆さんからご意見をいただきたい。

◇昨日、松村教育長と高岡副市長とともに、7名の市内中学校校長の30分程度のヒアリングを行った。ヒアリングでは、来年度予算に一千万円の計上を予定している「特色ある学校づくり」への意欲と、学校として必要な学習環境とその活かし方についてプレゼンテーションをしていただいた。また、学力の向上・定着に向けた対応の具体的な提案もしていただいた。

ヒアリングを行った校長のうち、提案をまとめきれなかった学校については、学校としての具体的な計画等があれば、補足資料を提出していただくよう伝えている。初めての試みであるので、寛容な対処をさせていただく。

ヒアリングと補足資料を基に公平・公正に進めていきたいと思う。実際にヒアリングをしてみて、極めて熱意や意欲の高い学校も多くあった。予算規模については、最終金額をまだ確定していない。すべての学校のすべての施設を整備したいという気持ちにさせるような各学校の取組があれば、当然ながら、小中全校の整備を行うことになる。しかし、中には、やるのが当然だという考えもあると思うので、私自身も実態

を十分に勘案していきたいと思う。そして、施設整備が、三次の教育の向上につながっていけば良いと思う。全校を対象とする校長ヒアリングは引き続き残り4日間を費やして行っていく。

ここからは、市長部局の予算要求状況一覧資料（非公開資料）に基づいて来年度実施予定の事業について説明する。

◇1ページ「学びの支援活動推進事業」という補助制度を新たに作っていきたい。主に、基礎学力の定着に向け頑張るNPOや自治連等の組織に対する補助制度を検討している。

近年、貧困による学力の格差が大きく問われている。経済的困難を抱えている場合が多いひとり親家庭への支援策を来年度進めていきたいと考えている。

◇スポーツ関連事業では、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致は引き続き進めていこうとしている。それぞれの組織が施設として三次が良いだろうといわれるものとしては、陸上、バスケットボール、バレーボール、レスリング、卓球と、まだお墨付きはもらっていないが、柔道がある。皆さんのいろいろな声を聞きながら、種目別のエントリーをしていこうと思っている。最終的には、JOC（日本オリンピック委員会）がまとめて、来年のリオオリンピックの際には、日本のキャンプ地の一つとして紹介される予定である。

◇7月27・28・29日には、インターハイが開催される予定である。三次市はサッカー会場になる予定なので、来年度予算に計上していきたいと思う。また、これからの三次市のめざすスポーツ振興、推進についての計画を策定していきたいと思う。

◇みよし運動公園の未供用地（調整池）を活用したニュースポーツを含めて、法面を活用した事業を来年度から進めてい

きたいと思っている。

◇甲奴町の老人福祉センターに温泉源がある。老人福祉センターを解体し、新たに、健康増進・運動推進を図る施設を作ろうと思っている。北の布野の温水プール，中心市街地のカルチャーセンターにある温水プールに加え，南に甲奴の温泉を活用した施設をつくり，これら3つの施設を活用して健康づくりを推進していこうと思っている。

◇市内の高校2年生を対象にキャリア育成ということで，企業協力を得て，企業によるプレゼンと企業訪問を行った。先日，カイハラの工場長とお会いする機会があり，来年度4月に新卒（高卒）者5人程度採用するというお話も聞いた。一旦市外に出ても，三次市への思いを持ってもらえるように，また，就職先としても関心を持ってもらえるようにキャリア教育は，高校教育の中で進めていこうと思っている。

◇8・9ページにある男女共同参画推進事業の展開や豊かな国際感覚の育成事業についてもやっていきたいと考えている。

◇現在は，まだ協議中であるが，吉舎の元促進住宅を日彰館高校の寮に代わる施設として，安価で活用してもらえたらと考えている。また，三次高校が，国際交流として，事業計画を立ててもらえれば，補助事業で協力していきたいと思っている。

続いて，教育委員会の予算要求一覧表（非公開資料）にある事業についてお話す。

◇2ページ「特色ある学校づくり創造事業」がある。子どもたちにとって将来あるべき姿を考慮し，一千万円の枠で，新規事業としてやっていく。

◇学習環境の整備については，エアコンを暑いから整備するというのは当然のことだとは思いますが，本当の意味で基礎学力のついていない子どもたちへの学校としての役割をしっかりと

果たすための環境整備にしたいと思う。

◇4 ページ 三次市には、県立風土記の丘があり、学芸員を配置し、県に運営してもらっている。古墳の数は県下一であり、それら貴重な歴史ある文化財があるので、整備しながら、保存をしていきたい。来年度4月からは、教育委員会に経験のある専門員を配置している。良い人材の活かし方を含めて、来年度から本格的にスタートしていかないといけない。計画的に整備していきたい。

◇市民ホールについては、三次はすばらしいイベントを開催されるとほめていただいている。市民ホールも2年目になるので、ますますの充実を図っていきたい。ふるさと納税について、広島県内では、本気で取り組んでいる市町が少ないと思うが、三次市は、ふるさと納税額が1億円を超えた。このお金は、ただ公共施設の修理に回すということではなく、子育てや文化財、スポーツ等、今まであまり手の届いていなかった部分にも活用していきたいと思っている。

◇5 ページには、「小中学校外国語教育推進事業」とある。小1から英語になじんでいけるよう、イングリッシュキャンプやALTの配置も含め、やっていきたい。

我々の思いを集約した「三次市教育大綱」にも相反する結果になることのないよう、学校現場にはしっかりやっていただきたい。

以上、来年度実施予定の事業について、お話しさせていただきました。これからは、今お話ししたことや配付している実施計画等を見られた上での来年度の予算についてのご意見や皆さんが日頃思っておられることを伺いたい。

松村教育長 現在、校長ヒアリングでのプレゼンを基に検討をし、予算化していくという時期に来ている。小1からの英語教育については、すべての小学校にALTを配置し、小1から活用でき

るよう市の多大な支援をしていただき、進めていこうとしている。英語教育は、文部科学省も力を入れており、三次市は先取りしてやっけていこうとしている。今日は、委員の皆さんからのご意見を伺い、参考にさせていただきたいと思う。

増田市長 老朽化した校舎や体育館の天井等，トイレの改修計画も教育委員会に計画してやっけてもらっている。過疎債へ充当できるものはして，整備をしていきたい。防水関係（雨漏り等）の工事も必要なものはやっけていく。

沖田委員 「三次市実施計画・財政計画」の表の項目に，地方創生とあるのは，「三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にうたっけてある事項を示すのだと思うが，教育大綱という欄はここにはない。三次市教育大綱に盛りこまれた部分が反映されている箇所が分かれば良いと思う。

秘書広報課長 委員の皆さんにのみお配りしている資料（非公開資料）の備考欄に実施計画を略して「実計 No.…」と書いている。この番号は，三次市教育大綱に関連する事業の実施計画における該当箇所を示している。

沖田委員 市長部局の事業にある「学びの支援活動推進事業」は非常に良い内容だと思う。政策課，女性活躍支援課，文化と学びの課の3課が一体となって進めていくということも非常に良いと思う。実際にやる時には，NPOまたは自治連等で行うのは良いと思う。

今，適応指導教室というのが生涯学習センターで学校教育課の主管で行われている。現状では不登校の子どもを対象として，平日の昼の時間帯に開催している。できれば，対象をもっと拡大して，不登校の子どもに関らず，ひきこもりや学習障害，ひとり親家庭で学習の機会に恵まれない子ども等も受けられるようにしてはどうか。例えば，開催時間も土曜日や，平日の夜等にできればよいと思う。人員も必要になって

くと思うが、学力補習や居場所づくりが可能になると思う。実施計画の6ページを見ると、インターハイの開催運営事業があるが、8月の1・2日にある高校の総合文化祭は載せていないのか。

増田市長 ここには載せていないが、費用の負担は当然認めていかなければならないイベントだと思っている。

沖田委員 教育委員会の事業について、「特色ある学校づくり創造事業」と「小中学校学習環境整備事業」はそれぞれ新規事業として位置付けているということであった。これらは、子どもたちの学習意欲の喚起や向上につながる事業であると思う。各学校が校長を中心に予算を取ることがどういうことなのかということをしつかりと考えてもらう必要があると思う。予算を要求する底流には、教育理論があると思う。学校として熱意とビジョンを立てた中で、この事業にこれだけお金をかけてやっていきたいという形でプレゼンすることが校長の今あるべき姿だと思うので、市長が言われていることには大いに賛成である。

増田市長 ヒアリングを行った7人の校長の中には、教育についての熱い思いを持っておられることがひしひしと感じられる方もいらっしやった。実際に成果が出ているという学校もあった。例えば、英検3級や準2級を取得していたり、中には、2級を取得しているという学校もあった。姉妹縁組を結んでいる海外派遣やスピーチコンテストを含め、学校現場も頑張っているのだと感じた。英語教育については、ものすごく高いレベルをめざしているのだと感じた。

小1からの英語教育については、議会では異論もあるが、三次の地において英語という共通語の教育を充実させるということには、期待感を持っているし、しっかりやってもらいたいと思う。英検の受験料補助は、予算化していききたいと思

っている。

また、学びの支援については、2つの思いを持っている。1つ目は、実績のあるNPO等の団体が自分たちの地域の子どもたちを何とか支援しようと立ち上がって行ってもらう支援と、2つ目は、来年度すぐできるかどうかはわからないが、支援の必要な子どもたちのために、あえて教育委員会を全面に出さない、分野を変えた支援である。例えば、適応指導教室を平日の夜や土日祭日で開いているのなら、指導を行う教師団を編成する等、教育委員会部局ではない場所で行政支援を行っていきたいと思っている。

今頑張っているあすなろとの関係についても調整の必要があると思っている。

沖田委員 もし生涯学習センターを活用することになった場合、そこへソーシャルワーカーを1人ぐらい配置してはどうかと思う。学校以外へ配置する場合は、国の事業として行うことは難しいかもしれないが、家庭と接触するためには、そういった役目を担う人が必要だと思う。

小1からの外国語教育については、小中一貫教育の推進の取組の1つでもあると思うが、今三次市で進めている小中一貫教育を今後どのような形で充実させていくのかということを確認にし、指標を示していく必要があると思う。外国語教育であれば、小1でどのレベルまで身に付けさせるか等おおよそのことは指標を設ける必要があると思う。特色を持たせるということが一番の狙いだと思う。

学力をしっかりと身に付けさせるためには、子ども自身に学習意欲を持たせる必要がある。そのために、生活をいかに整えていくかということは大変なことだと思う。特色ある学校としては、児童会や生徒会活動等の自治活動を活発にしていく学校があっても良いと思うし、英語を切り口にやっていく

学校があっても良いと思う。各学校に特色を持たせるという取組を教育委員会としてしっかりと進めていく必要があると思う。教育委員会と学校がともに汗を流さないとできないことだと思う。

増田市長 今実施している校長ヒアリングは、教育委員会としても初めての取組である。ヒアリングでは、校長のプレゼンを受け、市長として率直な思いを伝えさせてもらっている。学校に格差をつけるつもりはないが、熱意によって、格差をつけるくらいの気持ちでやらせてもらっており、このことが学校にとって良い刺激になってほしいと思っている。マンネリ化してはいけない。

小根森委員 予算案を見て、自主性を大事にしてくださっていると感じ、ありがたいと思った。特色ある学校づくりはもちろん、学びの支援活動推進事業にも非常に期待している。適応指導教室を拠点として、各地域でもそういった場所ができていくと役立つと思う。適応指導教室をいかに活かすかということを学校の先生たちが学び合える場所がほしい。教育の拠点となるような場所をつくり、学校の先生同士が学び合い、さらに、社会教育委員をはじめ、親たちの学び合いもあるような場所ができれば良いと思う。

また、小1英語とあるが、小学校の先生が英語を教えるというのは大変なことだと思う。いかにALTを活かすかということを経験する場所も一つほしい。成功させるためにも、できれば小学校の先生方が外国人の先生に教えてもらう場所が必要だと思う。

松村教育長 まさに、小学校教員が外国語をALTから学べる場をつくっていかうということで進めている。

小根森委員 総合教育会議ができてからずっと思っていたが、体力づくりも幼稚園の段階から継続的に計画的にやっていただきたいと

思う。継続性を意識し、専門的な体力づくりの観点から見て段階的に取り組んでいくことは、総合教育会議ができたことにより、実現できるのではないかと思う。

松村教育長 小・中学校で実践している「みよし体操」がある。これにつながるものや保育所や幼稚園に紹介する中でできるところをやってみる等して、全身運動を根本にしながら、それぞれの発達に応じた運動につなげていければと思う。

土井委員 子どもの貧困やひとり親家庭の支援を打ち出されていることを嬉しく思う。子どもの貧困に関する実態を三次市としてつかんでほしい。

新聞で、1日の食事のうち一番充実しているのが学校給食でその他は菓子パン等を食べているという記事を読んだ。その親は、決して育児放棄しているのではなく、長時間労働をしないと生活していけないということが原因のようである。三次市の貧困の実態をしっかりとつかんだうえでの対応が必要である。

今年度に引き続き、パパママスクールという事業がある。最近、児童虐待のニュースも流れている。パパ、ママ両方をしっかりサポートしていける支援にしてほしい。相談相手も必要だと思うので、24時間電話で相談に乗ってもらえるような事業もご検討いただきたい。

学校と奥田元宋・小由女美術館や風土記の丘との連携事業を進めようとした際、学校の年間計画がすでにできていて、連携が上手くいかないと聞いた。連携を取れるようにして特色ある学校づくりを進めてほしい。三次市は、古墳の宝庫でもある。三次はすばらしい文化を持っているんだという誇りを持ってもらえるような特色ある学校づくりも考えていただきたい。

増田市長 奥田元宋・小由女美術館には相当な指定管理料と学芸員の派

遣をしている。子どもたちが美術館で学ぶための場面をいかにつくるかということが大切である。学芸員を教育委員会に配置しているのはそのためでもある。美術館の学芸員としてではなく、教育委員会の一員として、文化施設を活かした取組についても、経験を活かしながら、活躍してほしいと思っている。来年度も1名学芸員を増員予定である。

土井委員 この市長の熱い思いを学校現場がどのくらい本気で捉えて行動できるか。学校現場の本気度が問われると思う。

増田市長 三次市には、甲奴のプラネタリウム、作木のカヌー公園、美術館、風土記の丘等多くの施設がある。学校現場のいろいろな場面でぜひ活用してほしい。施設を活用した活動については、ぜひ予算化していきたいし、そのための人員も確保していく。来年度4月にも実績のある学芸員を教育委員会に配置する。良い人材を活かしてほしい。

松村教育長 奥田元宋・小由女美術館や歴史民俗資料館で催される企画展等の案内をしっかりと学校へ広報することも大切なことだと思うので、しっかり紹介していきたい。子どもたちがせっかく訪ねた際に、専門の職員がいなくて解説をしてもらうことができないということのないよう、配置もしていただいている。各学校で実施する際必要なバス費用については、教育委員会で予算化しているので、有効に活用できるよう紹介をしていきたいと思う。

増田市長 特色ある学校づくりとして、各学校に、この目的のために、このような取組をしたいという物語を描いてもらえれば、特色ある学校づくりの中で予算化していけるので、学校にはチャンスと捉えてもらいたい。

松村教育長 子どもの貧困については、民生児童委員の皆さんや保護者・家庭と連携を取りながらどういった支援が必要なのか、どういことができるのかを探していくことが必要である。

制服一つにしても高価なものなので、リサイクルをしている学校もある。学校でもできる取組はあるはずなので、今後でも取り組んでいきたいと思う。

沖田委員 社会教育委員の方が尽力され、家庭の教育力向上のための5か条が作られた。そこには、小3と中2の保護者を対象としたアンケート結果をまとめてあるが、子育てで困っていることとして、1位 経済的不安、2位 しつけ、3位 子どもと過ごせる時間が少ないという結果が出ている。それに対しどうしてほしいかというところ、経済的支援がほしいとある。経済的支援をしていくとなると、具体的にどんなことに困っているのかをもっと細かく知る必要があり、教育委員会だけでは難しい部分は市長部局と連携して行っていく必要がある。また、子育てについての情報がほしいという意見もあった。相談機関は現在もあるが、上手く機能していなかったり、利用しにくい環境にあるということもあるのかもしれない。企業等の子育てに対する理解・協力がほしいという意見もあった。これらの意見も考慮して進めていく必要があると感じる。

増田市長 女性の皆さんに主に関わりがあることが多いと思うので、ひとり親問題や子育ての問題を含めた女性の皆さんの相談総合窓口を作っていこうと内部で検討をしている。社会教育委員で作成された5か条は私もサンプルをいただいたが、すばらしいと思った。

藤原委員 子どもたちに本物を見せてあげたいという思いがある。今の子どもたちは夢を持っていないと感じている。スポーツの関係でオリンピック・パラリンピック事前合宿誘致ということであれば、オリンピックをめざすアスリートを学校に招き、話をしてもらおう機会を設ける等してほしい。広島県には、カープの前田健太選手が大リーグに行く等、宝がたくさんあると思うので、宝を活かして、学校の年間スケジュールも考え

たうえで、子どもが夢を持てるような仕組みを十分に検討していただきたい。

増田市長 スポーツと文化を子どもたちに見せるチャンスを作っていかなければならないと思う。ふるさと納税等の財源もあるので、有効に活用していきたいと思う。

女子サッカーチーム“アンジュヴィオレ”からは昨年も、試合を三次で開催させてほしいという依頼があり、三次市もラブコールを送っている。去年は、バスケットボールの試合も開催した。この歳にして、初めてプロのバスケットボールの試合を観戦したが、体の大きな選手の迫力あるプレーを見てとても興奮した。教育委員会の子ども夢未来塾とは別に、市長部局でも事業をしていこうと思っている。

藤原委員 いろいろな企業に行かせてもらう機会があるが、三次には世界に誇れる企業もある。子どもたちは知らないと思うので、教えて将来的にこの企業に就職したいとか、こういう仕事に就きたいという思いが持てればと思う。今高校生を対象にやっているが中身を充実させてほしい。

増田市長 企業もグローバル社会なので、やむを得ず撤退するという企業も今後ないとは限らない。これから企業も流動性があると思うが、実際に見せるということは大事だと思う。

小根森委員 企業も大切だが、農業にも力を入れてほしい。小学校、中学校1年くらいまでは、地域の人との協力も得ながら、教育に農業を取り入れることを重視してほしい。自然には、全部の教科の基本があると思う。

松村教育長 現在は、総合的な時間を使って、体験を行っている。どのくらい関われるかということは、地域や学校の状況にもよるが、できる限りやっていきたい。見たり経験することは非常に大切なことだと思う。

スポーツについては、「子ども夢未来塾」という事業がある。

オリンピックの事前合宿誘致の大きな目的は、子どもたちや地域の者にとって本物を見せることである。スポーツに興味を持ち親しむきっかけにもなる。高校のインターハイを三次で開催するというについても、全国レベルが集まるということで実際に見ることができるといのは貴重なことだと思うので、しっかり周知していきたいと思う。

増田市長 みらさか学園周辺の環境整備の予算計上を認めているが、やはり環境を活用していくという前提がないと難しい。そういった企画案を積極的に出し、市長部局、教育委員会を動かしていこうという意欲や実践的な物語を学校現場に求めさせていただく。

土井委員 時間数の問題もあって体験をすることは難しいと思う。例えば、米づくりでは田植えの準備は地域の方がしてくださり、植える体験をしたとしても、それがいつの間にか米になっている。さらに、食べるときには、餅が出てくる。という体験になってしまいやすい。でも体験をさせないと本当の意味で米一粒の重みを感じることはできないと思う。学校教育の中でも本当の意味での体験をさせてやりたいと思う。

小根森委員 そうなると土曜日や日曜日を使った地域の方の協力を得ての体験活動も必要なのかもしれない。

松村教育長 体験活動は、地域の協力がないと成り立たないことであるし、これが地域教育や家庭教育にもつながっていくのだと思う。

増田市長 他に皆さんからご意見等はないか。

構成員一同 ー意見なしー

増田市長 最後に、事務局から、その他連絡事項はないか。

秘書広報課長 次回の総合教育会議の開催について、特別な案件がなければ平成27年度の会議は、本日をもって終了とさせていただきますが、ご異議ないか。

構成員一同 ー異議なしー

秘書広報課長 異議なしということなので，今年度の会議は本日をもって終了させていただく。次回会議については，来年度，別途ご案内させていただく。

増田市長 以上をもって，第5回総合教育会議を終了する。